

# 校長室より

令和7年1月6日(月)

「銀メダルではダメなのか」



みなさん、明けましておめでとうございます。年末年始はゆっくり過ごすことができましたか。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年11月の話になりますが、野球のWBSCプレミア12という国際大会が行われ、決勝に進んだ日本は台湾に0-4で敗れ、準優勝となりました。

その出来事は表彰式で起こりました。

侍ジャパンの守護神・大勢投手(巨人)は表彰式でかけられた銀メダルをすぐに首からはずしてしまったのです。

大勢投手の試合後のインタビュー記事を拾っていくと…

「(巨人で)日本一に届かず、プレミア12も優勝に届かずで、2度同じような悔しさを味わったんですが、その悔しさを忘れずに今後の野球生活につなげたい。」

「(今回はチームメイトと)調整法とか、技術的な部分もいろいろ話せた。凄くいい交流ができたが、最後に勝って終わりたかった。でも負けてしまって悔しいなあという気持ちです。」

「(表彰式で銀メダルをはずしたのは)単純に悔しかったんで。自分が欲しかったメダルの色でもなかったんで、かけていることにこう…悔しさがこみ上げてきて。取ったというより、かけていられなかった。」

などと述べています。

私自身、この選手の悔しい気持ちはわかりますが、メダルをはずす行為については理解に苦しみます。見かたによっては負けを認めないとか相手を認めないというような誤解を生じるかもしれません。

この世の中は思った通りにならないことだらけです。いくら勝負の世界とはいえ、試合終了後は相手を尊重した対応をとってほしかったです。そして、この銀メダルをこれからの自分を奮い立たせるものとして大切に扱ってほしいと思いました。

今後、こういった風潮が若い世代にまで広がらなければいいかと心配しています。